

その他 44 例を低リスク群とし、手術、術後経過について比較した。

【結果】平均手術時間、出血量は低リスク群と比べ有意差を認めなかった。高リスク群では術中合併症として 1 例高炭酸ガス血症、2 例血圧低下を認めたが有意差はなかった。術後合併症、術後経過でも両群間で有意差を認めなかった。

【結語】循環器疾患合併患者に対する LAG は術中、術後の経過と合併症において低リスク群と差はなく、おおむね安全に施行しうる術式と考えられた。

#### 4 進行胆嚢癌の診断で肝右 3 区域切除および胃切除術を施行した慢性胆嚢炎の 1 例

小林 和明・小野 一之・岡本 春彦  
田宮 洋一・水野 研一\*・中村 厚夫\*  
八木 一芳\*・関根 厚雄\*

県立吉田病院 外科  
同 消化器内科\*

症例は 68 歳、女性。21 年 11 月、上腹部痛で近医にて胃内視鏡検査施行。幽門の壁外性腫瘤を指摘され 12 月中旬当院紹介。CT、US、EUS で肝内（右葉および S4）および胃壁浸潤を伴う胆嚢癌と診断された。ERCP で胆管系に異常を認めなかったが、血管造影では後区域の動脈と門脈の encasement を認めた。肝外の脈管系に異常所見を認めなかったため、肝右 3 区域切除と胃切除で R0 切除できる可能性ありと判断し、22 年 1 月下旬に手術を行った。切除標本剖面の所見は、2 個の大きな結石を包み込むような分厚い癒痕組織様の肝内腫瘤であり、組織学的に癌細胞を認めなかった。軽度の高アンモニア血症と胆汁瘻を併発したが、術後 58 病日に退院した。

#### 5 鼠径ヘルニア根治術後に臍瘻として発生した縫合糸膿瘍の経験

小森登志江・飯沼 泰史・内藤 真一  
新田 幸壽・橋詰 直樹

新潟市民病院 小児外科

鼠径ヘルニア手術後の縫合糸膿瘍は、さほど珍しい合併症とはいえないが、これが臍と交通を持って、臍瘻として発症することは稀な合併症といえる。当科で症例を経験したので報告する。

症例は生後 11 ヶ月時に他院で左鼠径ヘルニア根治術を施行した男児。術後 8 ヶ月時から臍部の発赤腫張がみられ、臍部の切開により排膿が見られたので、遺残尿管の感染を疑われて当科へ紹介された。鼠径ヘルニア手術後 11 ヶ月時に当科を受診し、臍部からの瘻孔造影で左鼠径ヘルニア手術創部との交通がみられ、縫合糸膿瘍からの臍瘻と診断した。手術的に瘻孔を摘出し、絹糸 10 本を除去したが、摘出に際しては開腹手術を要した。

#### 6 出生前診断卵巣嚢腫における腹腔鏡時代の至適治療法の検討

奥山 直樹・窪田 正幸・小林久美子  
塚田 真実・仲谷 健吾・石川 未来

新潟大学大学院 小児外科学分野

【背景】近年増えた出生前診断卵巣嚢腫は予後予測が困難である。当科では平成 15 年より腹腔鏡を導入した。当初は細径の device がなく超音波下穿刺も行っていった。

【症例と方法】過去 7 年間に出生前診断された卵巣嚢腫 11 例を対象とした。初期 4 年間の 7 例は、4 例に超音波下穿刺、3 例に腹腔鏡下穿刺を施行した。最近の 4 例は細径の device を用いた腹腔鏡下穿刺を施行した。

【結果】出生前に嚢胞内出血所見を示す debris が認められた 4 例で 3 例は壊死卵巣を切除し、1 例は温存できた。嚢胞内出血所見の無い 7 例は 1 例が再穿刺を要したが全例温存できた。